

ふりがな 氏 名	かわかみ てるあき 川上 輝昭	職 名	教授
取 得 学 位	経済学修士	学会での受賞歴	
主な担当科目	児童福祉、障害児保育、社会的養護		
所 属 学 会	日本社会福祉学会、日本特殊教育学会、日本保育学会、日本特別支援教育学会、日本職業リハビリテーション学会		

◆ 教育業績

事 項	実 施 年月(日)	概 要

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
著 書	よりそい支える社会的養護	共	2019年5月	教育情報出版	第6章の「諸外国における社会的養護のあゆみ」および「児童福祉法の改正と日本の社会的養護のゆくえ」を担当。イギリスとアメリカの歴史を概観するとともに、日本における社会的養護のゆくえについては、児童福祉法改正の要点を取り上げた。
	学びを追求する高齢者福祉	共	2020年10月	教育情報出版	第6章1節の「尊厳とは何か」を担当。高齢者、特に判断力や記憶力が低下した高齢者は人権を侵害されたり人格を否定されたりすることもあり、虐待や詐欺等の被害者になることもある。どのような状況下においても高齢者の人権、尊厳を侵害してはならず、何人も尊重しなければならないことを指摘した。
論 文	相模原・障害者殺傷事件の教訓	単	2018年3月	名古屋女子大学研究紀要	2016年7月、障害者入所施設において19名が殺害され、27名が負傷するという事件が発生した。その容疑者は、支援員として当施設に勤務していた元職員であった。なぜこのような悲惨な事件が発生したのか、その要因と今後の教訓について考察を試みた。

区分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備考
論文	障害者賃金 公費で補填を	単	2018年9月23日	朝日新聞	<p>現行の障害者雇用率は1.8%であるが、2018年4月から2.0%に、2020年度末までに2.2%に引き上げられることになっている。雇用率が引き上げられることはノーマライゼーションの具体化であるとしても、賃金の保障も重要である。この課題の解決策としては雇用主負担だけでなく、公費による支援も必要であることを提言した。</p>
	グループホームにおける支援者の役割と課題	単	2019年3月	名古屋女子大学研究紀要	<p>障害者の生活の場が、施設から地域へという流れの中で、グループホームの支援者には新たな役割が課せられている。障害の種類や程度、個別ニーズに寄り添った質の高い支援が必要である。このことについて事例をもとに考察を試みた。</p>
	子どもから学ぶ力を育てる保育者養成の試み	単	2020年3月	名古屋女子大学研究紀要	<p>平成29年に告示された「保育所保育指針」では、保育士の質的向上が求められている。保育者養成に携わる立場から、保育現場の様子や保育を学ぶ学生の現状に視点を合わせて質的向上について考察を試みた。</p>
	障害者を対象とした生活介護支援施設に関する考察		2021年3月	名古屋女子大学研究紀要	<p>施設から地域へという流れの中で、障害者の暮らしの場は施設から地域へと移行している。その受け皿としての役割を担っているのが生活介護支援施設やグループホームである。本稿では生活介護支援施設における支援員や世話人の役割の現状と課題について考察を試みた。</p>
学会発表	生活に潤いが実感できる介護支援の試み	単	2017年8月26日	日本職業リハビリテーション学会(作新学院大学)	<p>対人障害や適応障害等の診断を受けていなくても、対人関係において円滑さを欠く学生も見られる。結果として休学や退学につながる事例も生じていることから、個別支援を試みた。その結果、思いに寄り添った支援が効果的であることが分かった。</p>

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月 (日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
学会発表	グループホームにおける支援者の 役割と課題	単	2018 年 8 月 25 日	日本職業リハビリテーショ ン学会(北星学園大学)	知的障害者の生活の場が施設 から地域へと移行されつつあ る。その具体的な場の一つがグ ループホームである。グループ ホームにおける支援は早朝と夜 間が主とされている。しかし、実 際には体調不良、ひきこもり等 が生じており、昼間の支援も必 要とされている。具体的な問題 点と制度改正の必要性を指摘し た。
その他 (著書)	ある分限者親子の物語	単	2018 年 10 月	弘報印刷	戦後混乱期の子育ち・子育てに 関して具体的な経験をもとに記 述した。今、児童虐待、子殺し、 親殺し、いじめ、不登校等の問 題が深刻化してきているが、親 子、家族で支え合う必要性、支 え合う重要性を物語風に分かり やすく取り上げた。